

平成30年度当初予算要求状況の公表に係る県民意見と反映状況

「平成30年度当初予算」要求状況に対し、県民の皆様からいただいたご意見の概要、それに対する県の考え方及び予算への反映状況は次のとおりです。

番号	ご意見の概要	県の考え方及び反映状況	所管課
1	大分県でも開催されるラグビーワールドカップ2019の機会を生かして、欧米からの誘客を九州で連携して行っていくという新聞記事を読みました。九州で連携するのはとてもいいことだと思うのですが、これに加えて大分県独自の観光誘客にはどのように取り組まれるのでしょうか。最近のテレビや新聞でもインバウンドが増加しているという報道が盛んになされているので、その活力を大分県に取り込んでいくことが県経済の活性化につながると思います。	ラグビーワールドカップ2019大分開催では、欧米・大洋州からも含め1試合あたり4万人の観戦客が見込まれており、宿泊施設の確保が重要となることから、県内全域でホテル・旅館・農家民宿などの受入環境整備に取り組めます。また、欧米・大洋州等海外からの観戦客は、平均14日間の長期滞在となることが想定されるため、旅行会社と連携し、クルーズ船など魅力ある旅行商品の造成に力を入れます。加えて、海外で知名度の高い旅行ガイド本やHP、SNSなどによる情報発信を行うほか、おもてなしの向上や多言語対応等にも取り組みます。	観光・地域振興課
2	私が住んでいる校区（大分市）では保育所や児童育成クラブに入れない子どもが多くいます。 親が仕事と子育てを両立できるよう、しっかり支援してください。	大分市を中心に保育所に入れない待機児童が平成29年4月時点で505人いますが、今年度中に保育所の新設や増改築により約1,200人の受け皿を確保し、待機児童解消を目指しています。また、30年度もさらに必要な整備を進めるとともに、保育士の確保や保育の質の向上にも取り組むこととしています。 放課後児童クラブ（児童育成クラブ）はクラブ数、登録児童数ともに年々増加していることから、県では市町村と協力して施設整備等で受入可能な児童数を増やしています。 さらに30年度は、民間の施設を活用したクラブ運営ができるよう賃借料の補助などを行うほか、運営強化のための研修等を実施し、総合的な放課後対策を推進してまいります。	こども未来課
3	犯罪の被害に遭った人が県内のどこに住んでいても、同じように支援が受けられるようにしていただきたいのですが、どのような体制づくりをお考えでしょうか。 また、被害者や遺族への経済的支援も必要と考えますが、県ではどのような事業をお考えでしょうか。	昨年12月に公布された大分県犯罪被害者等支援条例では、県と市町村との連携協力等を明示したところで、県では、住民に一番身近な市町村が被害者等への寄り添った支援ができるよう、市町村職員を対象に更に実践的な研修を実施するとともに、支援関係者の連携会議を新たに設置し、全県的な相談体制の強化につなげたいと考えています。 また現在、県の条例制定を受け、全市町村で同趣旨の条例制定の動きがあることに加え、被害者等への当面の生活に係る経済的支援として見舞金の制度を検討していることから、県としても、全県での制度導入に向け、市町村を後押しするため、全国初の県での助成制度を設けたいと考えています。	県民生活・男女共同参画課
4	熊本地震、北部九州豪雨と災害が続いており、地域での防災訓練などが大切だと改めて思います。 地域に防災知識を持つ防災士がいると訓練などもできると思いますが、いない地域や住民の高齢化等により、防災訓練などの活動が難しい地域もあります。 そのような地域でも防災活動の取組を進めてほしいと考えますが、県ではどのような対策をお考えでしょうか。	災害時には、自助・共助の取組が極めて重要であり、県では市町村と連携し、その中心となる防災士の養成やそのスキルアップに取り組み、地域における防災活動は着実に定着しつつあります。 一方で、ご指摘のとおり訓練が困難な地域があるため、30年度は、実施が困難な自治会等へ専門チームを派遣し、訓練の計画から実施まで直接支援を行うことにしています。 また、地域の防災活動に対する助言等を行う防災アドバイザーの派遣についても、派遣回数も拡充するとともに、活動が低調な地域に優先的に派遣するなど、地域の実情に応じて、きめ細かく対応できるようにします。	防災対策室

番号	ご意見の概要	県の考え方及び反映状況	所管課
5	<p>和牛のオリンピックである第11回全国和牛能力共進会で、「おおいた豊後牛」が日本一を受賞したと聞きました。全国的なブランドに仕立てていく対策として、どのような事業を考えていますか。</p>	<p>県では、「おおいた豊後牛」の認知度向上に向けて、大都市圏の外食事業者の店舗をサポーターショップに認定し、魅力や美味しさを情報発信しており、30年度は10店舗まで拡大する予定です。</p> <p>また、日本一受賞や国文祭などの大型イベント開催を機に、全国に通用するリーディングブランドを新たに創出するとともに、県内外で大々的なPR事業を展開したいと考えています。</p> <p>名実ともに日本一のブランドを目指し、取り組んでまいります。</p>	畜産振興課
6	<p>空き家が増える中で、高齢者世帯や子育て世帯のために既存住宅を有効活用することは良いことだと思います。</p> <p>ただ、段差をなくすなどのバリアフリーは支援の対象になっているようなのですが、省エネ対策工事は対象にならないのでしょうか。</p>	<p>住宅リフォームへの支援においては、窓や外壁等の断熱化に係る省エネ対策やヒートショック対策に関する項目も対象工事費に含めることができるようにしています。</p> <p>今後も引き続き、支援に関する広報等に努めるとともに、事業内容についても状況に応じ検討していきます。</p>	建築住宅課
7	<p>近年、九州北部豪雨・熊本地震など大きな被害もたらされる災害が多発しています。その度に、道路寸断や電車等の不通などのため、外出先から帰宅できないといったニュースを目にします。</p> <p>特に、突発的な集中豪雨などが頻発する中で、学校に通っている子どもが学校にいる時に交通機関が不通となるような大きな災害が発生すると、父兄が学校に迎えに行くことも難しく、安全のために子どもは学校に留まざるを得なくなるのではないのでしょうか。</p> <p>このような場合に備え、子どもたちが学校に待機するために必要な物資を用意しておく必要があるのではないかと思います。</p>	<p>大規模災害時には、児童生徒の安全確保を第一に考え、直ぐには下校させず学校に待機させ、被害が収まってから保護者に引き渡すことを想定しています。</p> <p>災害の規模等によっては、被害が収まるのが翌日になる可能性もあるため、児童生徒が学校で安心して一晩を過ごせるよう、各県立学校にアルミブランケット、簡易トイレ及びウエットティッシュを備蓄するための予算を要求をしています。</p> <p>なお、水や食料については、自助の考え方から児童生徒の保護者のご協力を得て備蓄することが望ましいと考えています。</p>	学校安全・安心支援課